一般社団法人　青森県助産師会新聞　　vol.30　no.2　.2025

あおもり助産師会かわら版

（第 94 号）

1　青森県助産師会総会の報告
2．会長挨拶
3．　新理事紹介
4．臨時日本助産師会臨時会通常総会に参加して
5．研修会報告
　1）「防災の心得～実践編～」に参加して
6．今年度の予定
　1）地域委託派遣事業会議及び勉強会について
　2）いのちの出前講座「あかり」の活動予定
　3）にんしん SOS 青森の活動報告
7．その他
　1）かわら版発行方法の変更について
　2）いいお産の日 IN ひろさき

1．令和７年度青森県助産師会総会

令和７年５月 10 日（土）10 時から県民福祉プラザ３階多目的室　３Ｂ　で開催されました。
書面決議の結果、会員 77 人に対し表決者 46 人、総会成立条件である３分の１以上の出席者（書面表決者を出席者とみなす）を満たし総会が開催されました。
総会のすべての議案において、過半数以上の賛成をもって可決されました。

今年度の新理事

	氏名	所属
会　長	三浦　初枝	どんぐりころころ助産院
副会長 副会長（会計兼務）	宮本　由美子 駒井　みどり	個人会員 青森中央学院大学　※いいお産の日実行委員長
理　事（いのちのお話事業） 理　事(妊娠 SOS 青森事業) （災害対策委員長）	今　鶴代 福井　りみ子	個人会員 母子ケアハウス　ふくい助産院
理　事（書記） 理　事（書記）	坂野　利智子 古川　久子	母子ケアハウスさくら助産院 Ｍｙ josan - in ＰＥＡＮＵＴ
理　事（会員管理） 理　事（安全対策委員長） 理　事（研修委員超） 理　事（広報委員長）	上田　海生 小田桐　早津枝 長内　徳子 三上　トモ	独立行政法人国立病院機構弘前総合医療センター 青森病院 青森県立中央病院 平川市　子育て健康課子育て世代包括支援係
監　事（会計監査） 監　事（会計監査）	石田　円 蛯名えり子	三沢市立おおぞら小学校 レディースクリニック　セントセシリア

２．会長挨拶

代表理事　三浦初枝

青森県助産師会は、日本助産師会との連携のもと女性のライフサイクルに係る健康生活の支援者として活動に取り組んでいます。

私は５月 15 日、１６日に開催されました 2025 年度公益社団法人日本助産師会第 98 回通常総会（於：一橋大学一橋講堂）に代議員として参加しました。前日の１５日は臨時総会でした。前会長の高田昌代氏の辞任をめぐり様々な討論が行われ混乱を極めました。その中で次の日、役員定数 18 名のところ 19 名の理事立候補者があり、選挙が行われました。

選挙から新しい役員決定までのプロセスが以下のように提示されました。

①代議員による選挙で**理事の選任** → ②**総会後の理事会**で代表理事並びに業務執行理事の**選定** → ③新役員決定

【定款第 29 条の２項】
「理事会は会長、副会長、専務理事、常任理事その他の業務執行理事を選定及び解職する」

定款を解釈すると、〖総会決議で会長候補となっている者を必ず会長に選定しなければならないとは規定になく、代表理事・業務執行理事の選定する権限は理事会にある〗、ということになります。
結果として 13 名が選出されました。役員定数は 14 名以上 18 名以内（定款 28 条）となっており、役員定数が欠員状態になりました。現在は再選挙に向かっています。
結果は日本助産師会会員マイページで確認をお願いいたします。

私たち青森県助産師会の通常総会は５月 10 日に行われました。理事役職選任は日本助産師会に則って総会後の最初の理事会にて決定されました。新たな役員名簿がありますのでご参照ください。そして 2 期目になりますが代表理事を三浦が務めさせていただきます。新たな理事とともに青森県助産師会を盛り立てていきたいと思っています。

また、総会要綱ご覧になったと思いますが、総会資料の様式が変わり、見なれないかと思いますが、各 事業・委員会の目的、目標、計画、実績がわかりやすくなりました。青森県助産師会の活動を皆様に理解していただき、またご賛同いただきまして 1 人でも多くの会員様と共に、青森県内のお母さん、赤ちゃん、そのご家族様の幸せのために活動していきたいと考えています。「わたしこれやってみたい！」と思われる活動がございましたら一緒に活動をしていきましょう。

３．新理事あいさつ

✿今鶴代さん　　理事（いのちのお話事業）
この度初めて青森県助産師会の理事に就任致しました今鶴代です。これまで協力員として理事会に参加して参りました。八戸市に住んでいるため、毎月の理事会に参加することに不安はありますが、今はリモートで会議に参加することも出来るようになり、思い切って引き受けることに致しました。2 年間よろしくお願いいたします。

✿福井りみ子さん　　理事(妊娠 SOS 青森事業・災害対策委員長)
臨床の助産師として 40 年の経験を基に地域に携わり数年ですが、この職能団体に生かせることができたらと思います。予想を上回る少子化ではありますが、助産師の出番は多く情報と学びは必須です。助産師の理念に基づき、活動していく所存です。

✿古川久子さん　　理事（書記）
新理事の古川久子です。これまでクリニックに勤務し、主に妊産褥婦のケアに携わってきました。もっと身近な存在で母子ケアをしたいと思い助産院を開業いたしました。開業し一番に感じたことは地域での助産師の知名度の低さでした。助産師は病院では（主に分娩するときは）強く助産師の存在を感じてくれますが、退院後母子との関りは薄れていくように感じます。今回ご縁があり、助産師会理事に就任することとなったため、助産師をもっと身近に感じてもらえるように動していきたいです。

✿長内徳子さん　　理事（研修委員長）
新しく理事になりました病院勤務の長内徳子です。色々変わりゆく組織の状況についていけるか心配ですが、助産師のパワーを後輩達や地域の皆さんに知ってもらえる様に、一緒に活動していきたいと思います。

✿蛯名えり子さん　　監事（会計監査）
今年度より監事のお役を頂いた蛯名です。
業務内容は‘‘**金庫番**‘‘。県や市町村の委託事業では、莫大な金額の動きがあります。
母子とその家族の健全な幸せと青少年の健やかな心とからだを守る為に運用します。

4. 公益社団法人日本助産師会
第 98 回臨時総会・通常総会に参加して

代議員　坂野利智子

2025 年 5 月 15 日（木）、16 日（金）　一橋大学一橋講堂で開催された。

5 月 15 日（1 日目）
31 名の代議員からの要望で臨時総会開催となり、予定されていた都道府県代表者会議、三部会、懇親会が中止となり、前代未聞の出来事を体験することとなった。
議題は前日本助産師会会長の辞任に関するコンプライアンス事案の説明、役員選挙についての説明、臨時総会招集請求書に記載について説明であった。
議事進行にあたり理事会推薦する議長団に対し、代議員から「道義」が出され代議員推薦議長団選出対立があり、選出に 1 時間もの時間を要した。コンプライアンス事案に対して誤った情報、また社員による臨時総会に対して、理事会は定款、法律をもとに丁寧に正確な情報について説明された。

5 月 16 日（2 日目）
物故会員への黙祷、会長挨拶、来賓祝辞があり、その後日本助産師会会長賞、また、すくすく赤ちゃん献金贈呈がビデオ紹介された
通常総会は、理事会推薦議長団と代議員推薦議長団で対立 30 分の時間を要し開始となった。
審議事項：第 1 号議案　名誉会員の推薦では小田切房子さん（埼玉県）、斎藤葉子さん（千葉県）、高橋里亥さん（滋賀県）の 3 名が承認を得られ名誉会員として紹介された。
社員提案権行使書に記載された 1.監事の解任、2.理事の解任についての議題には、代議員から解任を求める理由が提出、理事会から説明議論された。その後、理事、監事の役員選任選挙が行われたが、選挙方法にも代議員からオープン選挙が提案されたが定款に従い、選挙権のある代議員以外は会場退室、施錠された会場で選挙管理委員会の管理のもと厳正に選挙された。
　昼食後の報告事項は 13 時 30 分開始が審議事項の延長で 15 時 25 分からと 2 時間遅れで再開し、2024 年度の事業報告、審議事項で決算、監査報告、2025 年度事業計画、収支予算報告された　審議事項では定款見直しの必要性、役員の報酬等及び費用に関する規定改定について議論された。
役員の選任については理事定数 18 名に対し、19 名の立候補者であり、定款に定める役員の定員数は 14 名以上 18 名以内で、役員選挙結果 13 名の当選で定数に満たないことから再選挙となった（結果は会員マイページ参照）
　今回、コンプライアンス案件が言われ続けてきた背景を鑑み、会員があっての理事会の運用であり、

理事会は会員へのわかりやすい伝え方と誠実さが大事であることを痛感した。
　代議員としての立場で参加し、緊張の連続ではあったが、受賞された諸先輩助産師の愛あるご挨拶で、心が和んだ時間がありとても感動した。
今後一日も早い、役員選出、組織の安定、運営が行われることを願います。

5. 研修参加報告

荒谷則子

　青森県助産師会総会で開催された災害の研修報告をします。
　講師に NPO 法人青森県防災士会青森支部長の三浦一郎氏を迎え「防災の心得～実践編～」のテーマで開催されました。地震や津波などの自然災害発生時の対応、備えについて、防災グッズの展示やダンボールベッド、ワンタッチベッドの作り方の実践、防災バッグの中身の紹介などあり、我々は日頃からどう行動し対応すべきなのか知る講義内容でした。
　日本海溝や千島海溝での地震が発生すると日本海溝では最大 M９．１を想定し青森県太平洋沿岸部では震度６強が想定、千島海溝では最大 M ９.３を想定、北海道厚岸町では震度７、襟裳岬では震度６強と想定されている。この巨大地震による津波浸水予想は八戸市２６、１ｍ　青森市 5、4m　深浦町 21・7m であり甚大な被害が想定されている。
　いつ起こるかわからない災害に対して想定を超える事態発生を、これ以上のものが起きるんだよ。ということをちゃんと考えることが必要です。また東日本大震災の後、各自治体で津波ハザードマップが示されているがそれを信じることなく、海辺から離れてとにかく早く高い所へすぐに避難すること。自分のところは大丈夫と安心しないこと。まずは率先して自分が逃げ出す勇気を持ち避難すること。そして流言や根拠のない情報に惑わされないよう信頼できる情報を自分から積極的に情報収集することを習慣をつけることが必要である。災害発生時は「自分の命は自分で守る」行動をとること。特に大事とされている３つの行動は頭を守ること（ヘルメットがなければ鍋やボウルを代用）、呼吸を確保すること（火災時口を覆うハンカチは濡らさず乾いたままで使用すること）、体温を維持することである。避難所に避難できたとしても季節や環境によっては熱中症、脱水症、対体温症などの二次災害となってしまうこともある。その時いる場所や環境によって行動が変わるので周囲の状況をよく観察し自分の安全を確保し二次災害に合わないように注意することが必要である。
　防災用品としては様々な災害を想定すると必要と思われるものが際限なく増えるのでまずは家族構成、（ペット含む）、地域特性を考え普段から使えるものを普段から使うように心がけ、非常時にはすぐ持ち出せるようしておくこと。（できれば玄関、車、物置など数カ所に準備できれば安心）。飲料水としては１日に一人当たり最低限１ℓ、飲む以外の水も含めると３ℓ あれば安心。常日頃から災害に備えてライフラインが止まった時の対応、対策をとっておくこと。（トイレ、電気、ガス、水道、電話（連絡））、また減災の取り組みとして、地震発生時落ちてくるもの（蛍光灯やガラス破片、看板など）、動くもの（冷蔵庫、テレビ、車など）、倒れてくるもの（本棚、食器棚、タンス、ブロック塀など）に注意しておくこと。

　災害発生時の自分の行動や準備について整理するとても有意義な時間を過ごすことができました。

6. 今後の予定

1）地域委託派遣事業について

地域委託助産師派遣センター：三浦初枝

今年の総会資料から事業目的・目標・計画を掲げて活動をすることになりました。
「地域活動推進事業」の目的って？とかなり考えました。主な活動は市町村委託の「産後ケア」ですので、目的目標に盛り込みました。今年は、前年度の課題と改善点を主な活動として実行していきます。
　市町村委託は令和 7 年度から３町村が加わり１４市町村となり活動が始まっています。産後ケアを受

ける方も年々増えてきています。１人で子育てしているお母さん、家族の支援はあるが悩みながら子育てをしているお母さん、何人目でもお母さんの支援は必要です。そっと手を差し伸べて、そばにいてお話を聞いてあげるだけでもお母さん方は安心できると思います。そんなお母さん方や子供たちの成長が見られることはこの事業の最大の利点だと思います

昨年度は地域の会議で学習会を計画的にできませんでした、しかし、毎月質問疑問などが出され、検討してきました。この疑問がお互いの学びに繋がっていきますし、次の産後ケアの場面で大いに役立つこと必須です。

さて産後ケアを行っている会員の皆様には、日本助産師会の「産後ケア実務助産師」の研修を受けて産後ケアを実施していただきたいと思っております。この研修で得られるものは多く、自分の日々のケア実践の糧となります。また助産師としての「質の保証」となりますので、これから産後ケアを考えている方、現在ケアを実施しているがまだこの研修を受けていない方はどうか研修を受けていただきたいと思います。

２０２４年度の申請は終了していますが、２０２５年度はこれからになります。詳しくは日本助産師会会員マイページでご確認をお願いいたします。

２）いのちのお話チーム「あかり」活動報告

あかりリーダー　　今　鶴代

いつもあかりの活動にご協力いただきましてありがとうございます。

これまで私たちは「いのちのお話プロジェクトあかり」として活動して参りましたが、今年度より「いのちのお話チームあかり」と事業名を変更して活動することとなりました。「プロジェクト」というのはある目的を達成する為に期間を決めていろんな分野の力を結集して取り組むことだそうです。平成 15 年から始まったこの事業は令和 5 年度より青森県の委託事業に指定され、予算を頂いて活動できるようになりましたし、県内の教育機関にも一定程度認知されるようになったため、プロジェクトという名称は今となっては適切ではないと考えたからです。

さて、昨年度の小学校での出前講座の開催数は 78 校となり、念願だった中学 1 年生対象の講座も５校開催できました。これもひとえに会員の皆様のご協力あってのことと感謝申し上げます。

また、昨年度は講座の様子が度々新聞やテレビでも取り上げられ、この活動内容が意義深いものとして注目度が上がってきていると感じています。警察庁から発表された統計で、昨年の小中高生の自殺者数が過去最高になっていることは重大な社会問題であり、身近な小中学校で死亡一歩手前の自殺企図の案件に肝を冷やし、何とか手を打たなければと頭を悩ませている教育関係者も少なくないはずです。そんな教育現場と協力して、この講座で子どもたちの自己肯定感を高め、自分のいのちの大切さに気付かせること、お友達のいのちも自分と同じ様に大切ないのちと気付かせること（いじめの予防）、子どもが困った時の SOS の出し方を教え、深刻な悩みを抱え始めている子どもが一人で悩まないように、そして保護者には自分の子どもも悩みをかかえているかもしれないことに気付かせ、子どもの変化にいち早く気付いて寄り添ってあげることの大切さを伝えていかなければと思います。

そして、今年度の講座のご案内は 2 月末に県内の全小学校 230 校、全中学校 152 校、及び 36 か所の教育委員会に郵送し、6 月 10 日現在で小学生講座は 52 校、中学生講座に至っては昨年度の実績と同じ５校からの申し込みを頂いています。

講座の開催は 6 月末から昨年度より多くの小・中学校で講座を実施することを目指していますが、シナリオの改善や教材などより一層内容も充実したものにしていきたいと思っていますので、皆さまお気づきの点がございましたら、どうぞご一報くださいますようにお願い致します。

会員の皆さまでよりクオリティの高い講座を創り上げ、実践していきたいと思いますので、今後も一層のご協力をお願い致します。

※地区の再編成がありました。

それに合わせて、地区リーダーも変更している地区もあります。

青森青森グループ担当：福井りみ子　TEL：0172-62-4496
弘前グループ担当：白濱奈々子　TEL・Fax：0172-89-1016
八戸グループ担当：今鶴代　TEL・Fax：0178-38-7180
連絡の際は、確認して連絡してください。

3）　にんしん SOS 青森相談事業「いっぽ」の活動報告

リーダー　福井りみ子

令和６年４月１日～令和７年３月 31 日までの１年間の相談件数は 323 件（電話 72 件、メール 251 件）でした。相談内容は妊娠不安（妊娠しているか不安等）が 83%を占め、年代では 16 歳がピークでした。

10 代～40 代以上の各年代の男女から、多種多様な相談内容に対応しています。２月には産婦人科医会長佐藤秀平先生に情報共有をし、対応する事例がありました。今年 4 月より、産婦人科医会の先生方は佐藤秀平医会長、千歳和哉先生、新たに上田克文先生、田中幹二先生が本事業に協力いただけることになりました。県および助産師会としても強力なバックアップをいただき、今後いろんな事例にも対応できる体制となりました。

今回 16 歳がピーク年齢という結果から、助産師として健康教育のなかでプレコンセプションケアの重要性を感じました。10 代の性は私たちが思っている以上に氾濫しており結果、相談できる大人がいない！母親はいません！妊娠したかも‥、生理が不規則です。など一人で悩む女性ばかりです。相談して来た人には何回かメールのやり取りする中で受容し、あなたのからだが大切だよ。など寄り添います。

悩んでいる女性がこの相談窓口を知って頼ってもらえるよう PR 活動をしていきたいと思います。5 月 29 日丸大サクラ ヰ薬局経営企画部部長と交渉しました。県内 90 カ所ある、ハッピードラッグへリーフレットの設置許可をいただき、今後設置までしていただくこと運びとなりました。

今後も PR 活動に力を入れたいと思います。

７．その他

1）　かわら版発行方法の変更について

これまでは、会員向けの季刊誌としてかわら版を発行してましたが、今年度から、一般の方も、かわら版を見ることができるようになります。そのため、一般の方も気軽に読めるよう、助産師会の活動が広く知り渡ることができるよう、内容を充実させたいと考えています。ご意見・載せてほしい内容などありましたら、連絡ください。（広報委員会）

2）　いいお産の日 IN ひろさき

いいお産の日は、今年度は弘前になります。今後スケジュール等かわら版を通してお知らせします。近くに住んでいる方、興味のある方、参加をお持ちしております。

（いいお産の日実行委員会）

【あおもり助産師会かわら版】第 94 号
発行日：2025.6.22
発行人：一般社団法人青森県助産師会事務局
〒036－0151 青森県平川市石郷柳田 53－3　どんぐりころころ助産院内
連絡先：電話：0172－55－7361　　Fax：0172－55－7362
HP：http://midwife-aomori.org/